

◎新潟県告示第1081号

新潟県内の市町村が公立大学法人の設立、定款の変更及び解散する場合の認可にかかる基準については、以下のとおり定める。

平成25年9月10日

新潟県知事 泉 田 裕 彦

第1 公立大学法人の設立を認可する場合

公立大学法人の設立の認可については、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号。以下「法」という。）その他の法令の規定によるほか、次の基準によって審査する。

1 公立大学法人の定款については、次に定める基準に適合していること。

(1) 名称に公立大学法人という文字が用いられていること。

(2) 役員については、次に定める基準に適合していること。

ア 役員の定数は、法人の業務の規模、業務内容等法人の実態からみて適正なものであること。

イ 副理事長を置かない場合には、法人の業務運営に支障がないと認められること。

(3) 資本金、出資及び資産については、次に定める基準に適合していること。

ア 公立大学法人が、業務を確実に実施するために必要な資本金その他の財産的基礎を有していること。

イ 出資が、地方公共団体に限られていること。

ウ 設立団体（法第6条第3項に規定する設立団体をいう。以下同じ。）が、公立大学法人の資本金の額の2分の1以上に相当する資金その他の財産を出資していること。

エ 出資される財産のうち金銭以外のものの価格が、出資の日現在における時価を基準として出資する地方公共団体が学識経験を有する者の意見を聴いて評価した価格であること。

オ 法第59条第2項に規定する移行型一般地方独立行政法人である公立大学法人に承継される権利に係る財産の価格は、当該公立大学法人の成立する日現在における時価を基準として設立団体が学識経験を有する者の意見を聴いて評価した価格であること。

(4) 公告については、設立団体の公報への掲載又は掲示板への掲示等適切な方法により行われること。

(5) 解散に伴う残余財産の分配の方法が適切であること。

(6) 定款は、法第69条の規定を踏まえ、公立大学法人が設置する大学における教育研究の特性に配慮したものであること。

(7) 学長を理事長と別に任命する場合については、その旨を定めていること。

(8) 法第71条第3項に規定する選考機関については、当該選考機関の構成員に関する事項及び当該選考機関の議事の手続に関する事項その他当該選考機関の適正な運営を確保するために必要な事項を定めていること。

(9) 学長となる理事長が2以上の大学の学長となる場合の大学ごとに設置される選考機関の代表者で構成する会議については、当該会議の構成員に関する事項及び当該会議の議事の手続に関する事項その他当該会議の適正な運営を確保するために必要な事項を定めていること。

(10) 公立大学法人の理事長が当該公立大学法人の設置する大学の学長となる場合については、当該公立大学法人の成立後最初の学長となる理事長の任命に関する手続を定めていること。

(11) 学長を理事長と別に任命する場合については、学長を別に任命する大学の学長の当該大学設置後最初の任命に関する手続を定めていること。

(12) 公立大学法人が設置する大学の設置後最初の当該大学の学長の任期を定めていること。

(13) 経営審議機関については、経営審議機関の構成員に関する事項及び経営審議機関の審議事項に関する事項その他経営審議機関の適正な運営を確保するために必要な事項を定めていること。

(14) 教育研究審議機関については、教育研究審議機関の構成員に関する事項及び教育研究審議機関の審議事項に関する事項その他教育研究審議機関の適正な運営を確保するために必要な事項を定めていること。

(15) 業務については、法第21条第2号に掲げる業務及びこれに附随する業務以外のものを定めていないこと。

2 公立大学法人の定款において設置することとしている大学又は大学及び高等専門学校が設置が確実に見込まれていること。

第2 公立大学法人の定款の変更を認可する場合

公立大学法人の定款の変更の認可については、法その他の法令の規定によるほか、次の基準によって審査する。

1 関係法令の改正、業務の範囲の拡大又は縮小等、定款の変更を行う相当の理由が認められること。

- 2 第1の1に定める基準に適合していることのほか、その定款の変更において設置することとしている大学又は高等専門学校の設置が確実に見込まれていること。

第3 公立大学法人の解散を認可する場合

公立大学法人の解散の認可については、法その他の規定によるほか、次の基準によって審査する。

- 1 業務の継続の必要性がなくなる等、解散を行う相当の理由が認められること。